

カキにおける持続可能な収量増加技術の開発

○実施期間：令和7～10年度

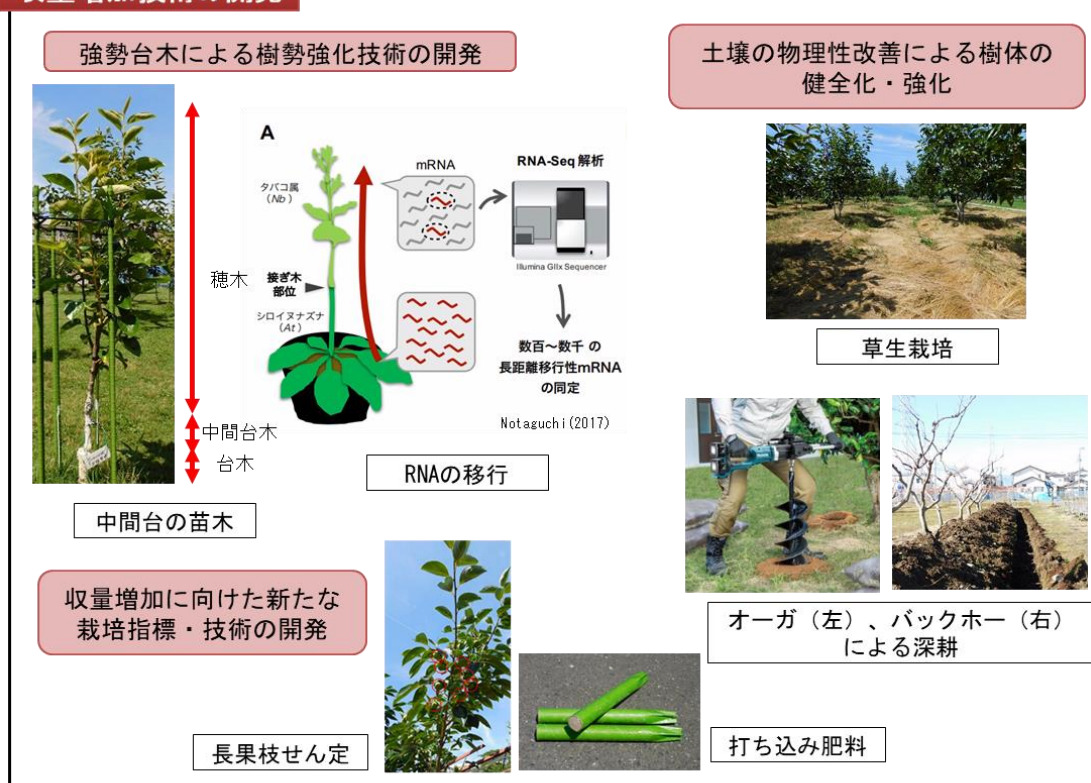
○担当部署：果樹・農産物利用部

○区分：農畜水産物の革新的経営環境強化プロジェクト・県単

○研究内容

岐阜県は「富有柿」発祥の地であり、カキ栽培は地域に根差した重要な産業です。しかし、近年、産地におけるカキ樹の高樹齢化が進み、生産性が低下しており、産地の持続性が危ぶまれています。特に、長年の栽培により、土壌に耕盤層が形成され、気相率が低下するなど土壌環境の劣化が進んでいます。このような状況の中、カキ産地を持続していくためには、樹勢を強化した苗木、既存のカキ樹を維持しながら収量増加を図る技術の開発が重要です。そこで、中間台木による樹勢強化技術、既存樹の健全化技術および収量増加技術を確立します。また、樹勢診断技術を開発します。

収量増加技術の開発



期待される効果

収量増加技術の導入によって、慣行栽培の1.2倍の収量が期待できる

カキ産地を持続することができる